

たぐろ

TAKUSUI
No. 643

5

May, 2010

発行 財兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



4月17日にグランドオープンした「賀川記念館」

Report

「賀川記念館」オープン

～賀川豊彦の業績や思想を発信～

漁業者と仲卸業者が対談～魚価低迷の打開に向けて～

NEWS

兵庫県農林水産功労者・漁協運動功労者決まる

漁業者と仲卸業者が対談 ～魚価低迷の打開に向けて～

大輪田塾
神戸水産物卸協同組合



ミニ講義を受講する大輪田塾生と神戸水産物卸協同組合青年会メンバー

伸び悩む水揚げ、燃油価格は高止まり、市場における取引価格の低迷、と漁業者には厳しい環境が続いています。

特に魚価の低迷は生活に関わる問題で、その打開方策を探るため、大輪田塾では流通部門関係者との意見交換が必要と約半年前から準備を進めていましたが、このたび(社)神戸市中央卸売市場運営協議会を通じ、大輪田塾生と神戸水産物卸協同組合青年会メンバーとの対談が実現しました。

4月13日(火)、神戸市中央卸売市場本場の会議室で神戸水産物卸協同組合の青年会メンバー10名と大輪田塾第4期生2名、第5期生4名の他、運営委員、県の担当職員あわせて15名が、「魚価低迷の原因と対策について」のテーマで対談しました。

対談に先立ち、神戸水産物卸協同組合の藤原敬之副理事長により「中央市場とは？」のテーマでミニ講義を受け、さらに同組合を中心に構成された「水産業界の将来を語る会」が2001(平成13)年にまとめた『魚の市場の狭域化』への対策が対談の話題提供として紹介されました。

中央市場の機能では、『評価』『分荷』の機能の他、最近では、顧客への商品情報や価格動向などの『情報提供』機能の比重が重くなっていること、市場の狭域化では、スーパー、コンビニの台頭など流通形態変化への対応の遅れや食肉との価格、宣伝競争での敗北などにより、魚の情報を一元的に扱うマーケティングセンター設置の必要がある点などが講義されました。

続いて、対談は大輪田塾生からの質問に青年会メンバーが答える、という形で行われ、値が付きにくいハタハタなど小型魚の販売努力や、スーパーを含む小売店の1回の取引量が以前よりも少量多品種化していること、また、地域、時期、魚種毎の顧客の需要や価格の推移から、中央市場の料理教室の運営状況に至るまで、生産者と流通業者は、立場の違いはあるものの、魚食文化再構築をめざすという共通面から良い情報交換の場ともなりました。

今回は、初めての対談であり、魚価低迷問題などの議論を更に深めるため、今秋、再度対談を行うことを約し、散会しました。

「賀川記念館」オープン

～賀川豊彦の業績や思想を発信～

4月17日(土)、「賀川記念館」のグランドオープン記念式典が関係者約150名出席のもと行われました。



「ミュージアム」の展示

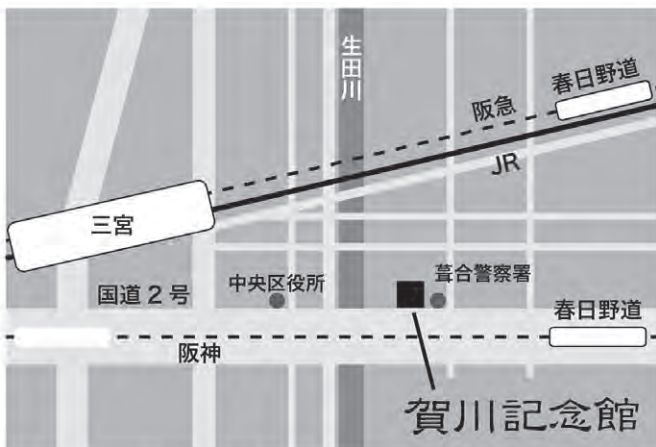
「賀川記念館」は、もともと賀川豊彦が、1909年に貧困にあえぐ人々の救済活動を始めてから50周年になるのを記念して計画され、弱者支援の場として1963年に開館しましたが、2009年に100周年になるのを期に、同氏の献身の足跡紹介のみならず、共生社会実現のための調査研究活動や地域福祉を担う施設として建て替えられました。

そのため館内には、実践の場として『神戸イエス団教会』『友愛幼稚園』と、研究、情報発信の場と

して4階に『ミュージアム』『アーカイブス』『研究室』が設置されています。

この4階では、生活協同組合運動や平和運動、労働運動などの幅広い功績を12のブースで写真、投影画像、動画などで紹介し、約200冊といわれる著書、訳書も展示、公開している他、研究室のパソコンでは賀川豊彦に関する情報を検索入手することが出来ます。

賀川記念館では、賀川豊彦とその仲間の100年を検証し、次の100年を見通して現代相応の共生社会を実現するための新たな取り組みを行い、多くの仲間と手を携えて課題解決への行動を起こしてゆきたい、としています。



国道2号沿・葦合警察署西隣

「賀川記念館」

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通5-2-20

TEL : 078-221-3627

開館時間 : 10:00~17:00
(入館は16:30まで)

休館日 : 月曜日(臨時休館場合あり)

入館料 : 大人300円
小学生~大学生100円

よろしくおねがいします

今年採用された 新入職員を紹介します！



JF兵庫漁連

組織統括本部
指導部

ひろつる めぐみ
廣津留 恵

出身地は大分県です。仕事では、皆さんに1から教えて頂くことばかりです。早く仕事を覚えて活躍できるように頑張りますのでよろしくお願いいたします。



JF兵庫信漁連

総務部総務課
うえだ ひろゆき
植田 裕之

一日でも早く仕事を覚えるよう頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



のり海藻事業本部
のり共販部
はら かずや
原 和也

わからない事だらけですが、先輩職員の方々についていき、精一杯頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



営業部業務課
こばたけ しゅうへい
小畠 修平

周囲の信頼を得られるよう、常に使命感に富んだ職業意識を心掛け、円滑業務のために必要な知識、技能の習得に向け、自己研鑽を怠ることなく取り組んでまいります。



石油事業本部石油部
明石油槽所
おおた けいすけ
太田 圭亮

早く仕事を覚えて一人前の職員になりたいです。



営業部 業務課
あべ みか
阿部 美香

私の目標は、組合員様と手と手を取り合いより良い“浜の銀行”を作っていくこと。まずは自身のスキルアップに努め、一日も早く組合員の皆様の信頼を頂けるよう頑張りたいと思います。



流通加工事業本部
加工場
おか ひろし
岡 拓史

まず身の回りの人に喜んでもらえる役に立つ人間になりたいです。目の前の課題に必死に取り組み、そして今苦しい漁業を少しでも早く盛り上げられたらと思います。



兵庫県内海漁船保険組合

総務課
くわはら しょうこ
桑原 彰子

「昨日より今日、今日より明日」がモットーです。一歩ずつ確実に成長し、組合員や組織の役に立てよう努力していきます。よろしくお願いいたします。



JF 但馬

津居山支所
業務課 販売係

なんぼく たくや
南北 拓哉

高校では農業を学んでおり、
漁業関係は素人なので、毎日
が勉強です。尊敬する先輩方
の働く姿を見て、私も早く戦
力になれるよう頑張りたいと
思います。



柴山支所
業務課(冷凍・冷蔵担当)

にしむら まさゆき
西村 政行

早く仕事を覚え、精一杯頑張
るよう努力します。



JF 浜坂町

本所 経理課

たにぐち しんや
谷口 慎也

仕事が始まってからまだ日が
浅く、覚えなければまらない
事が多く大変ですが、毎日
少しずつでも成長できるように
頑張ります。



諸寄支所 業務係

きしもと りゅう
岸本 龍

あいさつをしっかりし、元気
よくがんばりますのでよろし
くお願いします。



NEWS

『大阪湾クリーン作戦』 を実施します

「大阪湾クリーン作戦」は、昭和59年か
らスタートし、今年で27回目を迎えます。

国の「環境保全月間」にあわせ、今年も
6月1日～30日に実施されます。我々JF
関係者は、生活の場である漁場環境を保
全するため、関係機関とも連携して清掃活
動等に積極的に取り組んでゆかねばなりま
せん。全浜をあげて海浜清掃など事業展開
を図りましょう。

未来に残そう青い海



平成二十二年 未来に残そう青い海・図画コンクール中学生の部
入賞作品 大阪府立豊中高等学校 3年 中野 比呂野さんの作品

～since1984～

第27回大阪湾クリーン作戦

期間：平成22年6月1日～30日

6月は環境保全月間です。



近畿地方整備局 社：大阪府漁業会 財：ひょうご環境創造協会 財：海上保安協会神戸地方本部
大阪府漁業局 社：大阪府漁業会 社：神戸市漁業協会 大阪海上保安監部
兵庫農林土産課 社：神戸漁業会 大阪府海城業安全協会 神戸海上保安部
大阪市港務局 大阪県環境保全協議会 兵庫県漁業協同組合連合会 和歌山海上保安部
大阪市建設局 社：瀬戸内海環境保全協会 和歌山県漁業協同組合連合会 関西空港海上保安航空基地
神戸市みなと経済 社：海上保安協会神戸地方本部 事務所：第五管区海上保安本部

兵庫県農林水産功労者・漁協運動功労者決まる

◎2010年度農林水産功労者表彰受賞

JF兵庫漁連 代表理事会長 **山田 隆義 氏** JF兵庫信漁連 副会長理事 **眞野 豊 氏**

兵庫県は2010年度の県功労者236人を決定し5月2日発表しました。水産関係者ではJF兵庫漁連の代表理事会長である山田隆義氏が、事務体制の見直しや販売部門の分社化などの改革を実施し、JF兵庫漁連の経営状態を著しく改善させた功績により、またJF兵庫信漁連副会長理事である眞野 豊氏が、金融サービスの充実、経営基盤の強化安定など、JF兵庫信漁連中期経営計画の実現に向けて重要な役割を果たされた功績を認められ、受賞されました。



山田隆義 氏



眞野 豊 氏

◎2010年度漁協運動功労者表彰受章

JF南淡 代表理事組合長 **前田 吉計 氏**

JF全漁連は2010年度の漁協運動功労者27人を決定し3月12日発表しました。本県ではJF南淡の代表理事組合長である前田吉計氏が、的確な判断と卓越した行動力で組合の経営基盤強化に貢献した功績を認められ、受章されました。



前田吉計 氏

心よりお慶び申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。

“命を守る運動” 4月の「海上安全講習会」開催状況

本年1月から各地で開催されている“命を守る運動”「海上安全講習会」、4月は3日(土)にJF室津浦で約60名が参加し、また19日(月)にJF家島で約50名が参加して「ライフジャケットの着用」を中心としたテーマで開催されました。

毎年のように発生している漁船の転覆・火災や転

落事故などを未然に防止するため、兵庫県下ではJF兵庫漁連をはじめとする系統5団体と海上保安本部、運輸監理部など関係機関が協力して漁業者やプレジャーボート所有者を対象とする「海上安全講習会」を地区毎に開催しており、5月以降も引き続き各地区での開催を呼び掛けています。

「安全講習会開催」のご相談は JF 兵庫漁連・指導部まで。

電話 078-940-8013

安全講習の模様



(4/3 JF室津浦)



(4/19 JF家島)

阪急百貨店で兵庫米をPR!!

JA全農兵庫

JAとJA全農兵庫は、伊丹産業(株)と協力して兵庫米の店頭販売、PR活動を、2月27日に堺北花田阪急、2月28日に阪急西宮ガーデンズで行いました。

当日は店頭で「兵庫県産コシヒカリ」ののぼりを立て、10時の開店からお米の販売ブースでは、訪れる買い物客1人1人に熱心に兵庫米のPRを行い、炊きたてのご飯の試食を実施しました。試食した買い物客からは「甘みがあり、ねばりも程よくおいしい」と好評で、また週末ということもあり、来客数も多く、当日用意していた商品は、ほぼ完売の大盛況でした。

このPR活動は消費者に兵庫県産米をより一層ご愛顧いただき、兵庫米の拡販に結び付けることが目的で、JA全農兵庫は、今後も各米卸・各産地JAと協力して兵庫米の販売、PR活動を行っていきます。



「兵庫県産コシヒカリ」ののぼりでPR

<http://www.ja-hyogo.or.jp/>

風見鶏の館で スプリングコンサートを開催

神戸市民生活協同組合

神戸市民生活協同組合では、神戸市より管理運営を受託している、神戸北野異人館街・風見鶏の館において、3月21日(日)に、「スプリングコンサート」を開催しました。このコンサートは音楽を通して、日頃異人館を訪れる機会の少ない方々にも、風見鶏の館により親しみを感じていただきたいと企画し、毎回好評をいただいています。

また、寒さの残る春の夜でしたが、多くの方々にお越しいただきました。今回はピアノによるシューマンの「アラベスク」、ドビュッシーの「喜びの島」などクラシックの名曲の演奏に加えて、特別に聖路加国際病院名誉院長の日野原重明氏をお迎えし、自作の詩を朗読していただきました。氏は少年期から青年時代までを神戸で過ごされるなど、神戸に縁の深い方です。かねてより音楽療法にも力を入れておられますが、今回は「若き日の思い出ノクターン」など、自作の曲も披露されました。

参加者の方々からは、「もうすぐ99歳になる日野原先生の詩で感動し、涙がわきました。エネルギーを頂きました」、「ピアノのきれいな音色に心洗われるような一時でした」などの感想が寄せられました。風見鶏の館については「このような素敵な文化遺産は残して欲しいです」、「きれいにライトアップされていて、思わず写真を撮りました」といった多くのお声を頂戴しました。

風見鶏の館は神戸のシンボルと言われます。神戸を離られた方にも、いつでも懐かしく再訪していただけるような施設でありたいと思います。



熱心に聴き入る参加者の方々

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



旬に想う

写真と文
遊方子

竹の季節

◆《竹の春》は秋の季語である。若竹が生育するのは陰暦8月、葉も生き生きと活気に満ちて《竹の春》となるが、春の竹は地中に筍を育てているため、親竹は疲れて黄葉し、落ちる葉もあり秋の風情となり《竹の秋》が春の季語である。竹は100年に一度花を咲かせ、周辺の竹全体が枯れるという。竹は1本ずつが独立しているように見えるが根では繋がった群体が多く、そのため一斉に枯れるようである。一年草は毎年花が咲きタネを残して枯れるが、竹は100年に一度の不慣れな作業で結実しないのではなく、本来が不稔性で実を結べない。

◆竹は稈（かん）が中空になっている。この特徴はタケノコの頃から顕著で、生長が頗る早く1日に1m20cmという記録がある。昼寝から目覚めた農夫が帽子が見当たらず、付近を見ると竹のてっぺんに有って驚いたという。笑い話のようだが実際に有った話だそう。この猛烈な生長力から、猛るといって意でタケと呼ばれるようになったという。筍は13~14度の気温が20日続くと、その1ヶ月後に生えてくる。この性質を利用して、地中に電熱線を這わせたり、堆肥の発酵熱を使って促成栽培を行う。2月下旬に鹿児島産、3月には九州や四国から出荷し、4月頃に肉厚で軟らかい京都産の筍が出る。旬を無くした野菜類の中で、筍は唯一旬が味わえる野菜と言えそうである。

◆竹を庭に植えた場合、ややもすると茂り過ぎになるため、適当な剪定が肝要だ。ある料亭の玄関で素敵なナリヒラダケの植

え込みを見つけ、専門家に頼んでいるのかと尋ねたら、古くからの雇い人が手を入れているという。モウソウチクに比べ華奢な園芸種で、ダイミョウチク仕立てに刈り込むと感じのいい景観になる。梅雨時、節から出た枝を全て5cm程に切って置けば、姿のよい枝葉となり、幹もすっきりする。多く芽を出す筍は、他のタケと同様に間引きが必要である。増え過ぎた竹は、決して見場良いものではない。

◆我が菜園の畦脇にある持ち主の無い竹藪は、背丈の長いのが日蔭を作るため、春に出る筍は殆どを伐採する。竹も伸びるに任せた栄養失調のものが多く、梢の辺りには虫が入り、支柱に利用も出来ず役立つものは少ない。労力の無駄遣いのようにだが、畑への日差しが戻ったのが嬉しい。竹の落ち葉が堆肥作りに役立つため落ち葉掻きをした。何年も放置された竹藪は落ち葉が土に化け、縦横に伸びた根が絡まって岩盤状になっていた。塵埃も多くて清掃に一頻り汗をかいた。竹の秋を迎えた竹藪には、気味の悪いほど筍が顔を覗かせている。



亀甲竹（姫路：好古園にて）

大輪田塾だより

「仲卸業者との対談」と「賀川記念館訪問」

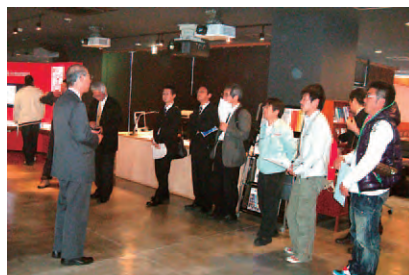
4月の大輪田塾は13日(火)に、神戸市中央卸売市場本場で神戸水産物卸協同組合の青年会メンバー10名との「魚価低迷の原因と対策について」という共通課題による対談、その後、賀川豊彦先生の業績を学ぶため、神戸市中央区吾妻通の「賀川記念館」を訪問、という内容になり、第4期生2名、第5期生4名の他、運営委員、県の担当職員あわせて計15名が出席しました。

対談の詳細は本文記事を参照して下さい。

この4月にリニューアルオープンしたばかりの「賀川記念館」では、同館の西義人参事による賀川豊彦先生の業績に関するミニ講義を受け、その後、館内の蔵書やプロジェクターによる壁面投影の展示資料などを見学、立派な業績を残されたにもかかわらず一般的に知名度が低い理由などについて質疑応答がありました。



対談で仲卸業者と意見を交わす塾生



「賀川記念館」での見学の模様

表紙の言葉



「賀川記念館」

賀川豊彦氏の業績を顕彰する「賀川記念館」は神戸市中央区吾妻通に1963年に建設されましたが、同氏の救済活動開始100周年を期に新たに建て直され、4月17日にグランドオープン記念式典が行われました。